

JASIS

NEWS

No. 29

2003/9/25

日本インテリア学会会報

■学会長辞任のご挨拶

前学会長：小原 二郎（千葉工業大学）

私は去る5月末の総会で学会の会長を辞任させていただきました。長い間の皆様のご支援を深く感謝するとともに、任期の途中で、2年を残して退任した我儘をお許しください。この紙面を借りて退任にあたっての所感を申し述べさせていただきます。

私は創設以来会長を勤めさせていただきましたが、常に気にしていたことが2つありました。1つは出来るだけ早く若い世代に交代していただきたいこと、もう1つは学会の経済的基盤を強化することでした。各支部や部会に回す予算が少なく、会報を出す回数さえも制限を受けることに頭を悩ましていました。それを解決するには会員数を増やす以外に方法がありませんでしたから、これにはかなり努力してきたつもりです。しかし満足の行く結果にはなりません。深く反省しています。

本来なら昨年の会長選挙の時、あらかじめ辞退を申し出るべきでしたが、1年だけ就任させていただいたのは下記のような理由があったからです。学会の今後のあり方を考えると、住宅産業の分野に所属する方々に入会していただく必要があると思いましたので、各社へお願いに参上しました。幸いその呼びかけに応じて多くの方が入会してくださいました。大会の研究発表もその方々の参加で多彩になりました。ありがたいことと感謝しています。

私が会長を辞任する前に、もう一つ目途をつけておきたいことがありました。それは工業高校の先生方への呼びかけです。現在全国の工業高校には43のインテリア科が設置されていて先生の数も多い。文科省は高校の先生方に対して教育資格認定試験という制度を設けていて、既に30余年になります。私はその委員長を20年余勤めましたし、インテリア学会の会員の中からも委員を務めて

いただいた方が何人も居られます。また工業高校で使用するインテリア科の教科書は文科省が10年ごとに、新しく編集して作りますが、その執筆者や審査委員にもインテリア学会の会員の方が協力してくださっています。平成15年度から使用している新教科書も去る4月に完成したものです。学会と工業高校とは以上のような関係があるうえに、文科省の担当官も高校の先生方に学会に入会することを勧めてくださったので、そちらへの呼びかけも一応の目途を付けた上で、次の会長に交代していただきたいと考えました。

但しこの計画はまだ緒についた所ですが、一部の先生方には入会していただきました。以上のような次第で、1年だけ会長を延期した目標は少しだけ軌道に乗り始めたと思っています。一方私は高齢になりまして健康上の理由もあって、この度の辞任を申し出た次第です。幸い高橋鷹志先生に会長を引き受けていただくことになりました。喜んでいきます。私は学会長を辞任しましたが、理事としての任務は残っていますから、引き続いて今後とも学会の発展のために努力する所存です。どうかよろしくお願いいたします。

なお蛇足ながら、インテリア学会の存在意義に対する私の考えを付記させていただきます。私が千葉工大に勤めて後に、デザイン学科を増設することになりましたが、そのとき苦労したのは若い有資格の教員を探すことでした。当時はインテリアに関係する学会が有りませんでしたから、インテリア関係の研究業績を持った候補者が見当たらなかったのです。そこでインテリアの分野に若い研究者を育成する必要を痛感し、有志の方々と相談して、インテリア学会を創設した次第でした。その後の歩みは遅いながらも、少しずつ軌道に乗ってきたように思っています。

ご承知の通り大学は今大きな変革の時期を迎えました。文科省は大学に対して、従来のような護送船団方式の保

護策を改め、「競争的環境の中にあつて個性の輝く大學を応援する」と宣言しました。学会を持たないような学科は他の学科に併合されたり廃止される恐れもあります。そうした状況から見ると、インテリア学会を創設したことはそれなりの意義があつたと考えられます。学会存在の重要性は今後一層増す事になるでしょう。私の能力不足のために発展の歩みの遅かつたことは申し訳ありませんが、今後は皆様のご協力で活性化をはかっていただきたいと願っています。

なおこのさい1つだけ心残りの責任を感じていることがあります。それは国際学会についてです。韓国は日本より数年早く競争原理を取り入れましたから、アジア三国インテリア学会の発展については大変熱心です。中国もまた現在、大学教育の拡充を急いでいて、2,000余の大学の中から10大學を最重点大学として選びました。こうした動きは各国ともますます盛んになると思われます。

ところで、2004年に日本が三国合同学会の開催を担当する順番になっています。加藤副会長が国際委員会委員長の大任を引き受けてくださっていますが、本当にご苦勞なことをと思っています。その活動をはじめには雑費が必要ですから、そのための費用として、とりあえず理事の方々のご好意に頼って若干の活動資金を作りました。これからいよいよ本番にかからなければなりません、各方面への募金も必要でしょうし、国際委員会に関係する皆様のご苦勞は並ならぬものと拝察します。どうか皆様のご支援を賜りますようお願いする次第です。

もう1つお願いがあります。学会が発展するためにはなんと言つても若い世代の会員を増やさなくてはなりません。それには身近なところにインテリアプランナーやインテリアコーディネーター、マンションリホームマネージャーの資格を持った方々が居られるでしょうから、それらの方々に学会へ入会していただくように勧誘していただきたいと思います。

以上に、辞任にあたつてのお礼とお願いを申し上げます。高橋新会長にたいしてもこれまで同様に ご支援いただきますよう重ねてお願い申し上げます。



■会長就任に寄せて

新学会長：高橋 鷹志（日本大学・早稲田大学）

日本インテリア学会創設以来15年間にわたる小原二郎名会長のあとをお引き受けすることは正直言って荷が重い。第15回総会で選任され新会長としての挨拶を申し述べたのだが、私の置かれた状況への認識が不足しており、発言内容に見当違いの部分があつたことを先ずお詫びしたい。（小原前会長がその場に居られればご注意いただけたかと思うのだが）。

後日、会長事務引継ぎの場を持ち（小原前会長、上野総務委員長、藤城事務局長同席の下に）私の任期二年は小原前会長の任期残余期間であり、当面は前会長の路線を継承するという原則を確認した。更に事務局本部欠如状態は問題であり、暫定的に元の千葉工業大学デザイン

科学科に戻すこと、分室は現行の藤城事務局長とし、事務連絡を御願ひすることを合意した。しかし、千葉工業大学には既に長期にわたりお世話いただき、また藤城氏個人へも大なる負担をおかけしていることから早急に対応を図る必要があり、会員諸氏からの意見、提案をお願いしたい。

その他の学会運営に関しても改善すべき点は二年後を待たず随時実現することに吝かではなく、早急に会長補佐会議を開き、問題諸点を洗い出し11月の東北大会の折の理事会に諮る準備を進めることにしたのである。

「インテリア」に対する社会一般の関心、取り組みが急速に進行しつつあり、当学会が取り残されることも危惧される現在、この機会を捉らえて会員諸氏から学会のあり方に対して忌憚のないご意見をいただきたい。

そうした危機意識は既に多くの会員の間で共有されており、平成14年度総会において「インテリア学会の明日を考える」というワークショップが行われたのである。この催は「明日」の扉を叩いた段階に過ぎなかったとも思われるが、今後も継続して行きたいと考えている。

既に種々の機会に述べたことであるが、持続的環境社会におけるインテリアの役割、姿を描き出すことは当学会の果たすべき極めて重要な仕事であり、大学、研究所、設計あるいはその他の実務に携わって居られる会員それぞれの立場からこの問題への活発な議論が起こることを期待すると共に、その議論の場を立ち上げたい。そうすることによって、インテリアに関わる学（問）と（技）術とが相互に刺激しあつて、これまで西欧のインテリアの姿形の導入に邁進してきた道を見直し、汎風土的（glocal=global+local）インテリア開拓へとつながる理論が生成されることが期待される。最近、外来語のカタカナ表現の氾濫に対する疑問が出されているが、上記の動きの中から「インテリア」の日本記表現が見つかるかもしれない。

物理的（構築的）環境としてのインテリアの西欧化（国際化）は進行したのに対して、公私を問わず空間における振る舞い方、つまりインテリアの社会文化的環境における規範定立への営みが置き忘れられてしまったのではないか。公共空間における傍迷惑な行動を目のあたりにするにつけ、現代的作法、行動規範形成の必要性をひしひしと感じる。この側面でインテリア学からの取り組みが出来ないものであろうか。空間行動倫理・規範学という領域の誕生が待たれるのである。

なお、今年の総会は人間・環境学会大会と日時が重なつてしまい、欠席された方も多かつた。こうした事態が起こらないよう配慮しつつ、他学会・諸関係組織との連携も深めていきたい。会員各位からのご支援をお願いする次第である。

■平成15年度日本インテリア学会総会

総務委員会・事務局

□1. 総会議事録

日 時：平成15年5月31日（土）14:00～15:30

千葉工業大学津田沼校舎

進行役：司会：湯本長伯、議長：岡島達雄、書記：小林輝邇、議事録署名人：小原誠、栗山正也

1. 会長小原二郎挨拶：会長在位14年を振り返って、千葉工大正門の歴史建造物の紹介など。
2. 総会成立数の確認：正会員数543名、委任状数198名、出席者数32名で成立。
3. 1号議案：平成14年度事業報告・決算報告（上野）：支出の部、項目修正6→7、7→8、8→9、9→10に変更。監査報告（中村）。質疑の後、挙手により、1号議案の承認。
4. 2号議案：平成15年度事業計画・予算計画（上野義雪総務委員長）：厳しい財政事情と15年度事業計画・予算計画（案）、事務局の運営などの説明。質疑の後、挙手により、2号議案の承認。
5. 3号議案：学会長改選の報告（井村選挙管理委員長）：高橋鷹志新会長。名誉会員に関する提案の説明（上野総務委員長）：会則5条（4）を運用し、渡辺優、田辺麗子、白石勝彦、車政弘、川島平七郎の各氏を名誉会員として推挙・承認。小原二郎氏を名誉会長に推挙・承認。
6. その他：
 - （1）AIDIA日本大会の概要（加藤国際委員長）より報告。
 - ①開催日、場所、開催形態、予算規模、PRE-大会：上海学生ワークショップ、大会後援基金など。
 - ②開催：2004年秋、
 - ③場所：東京ビッグサイト展示会場、（IPEC21-04と共催、第3回AIDIA大会、16回JASIS秋季大会）。
 - ④講演会の形式：各国ゲストスピーカー2名。
 - ⑤予算規模：800万円。
 - ⑥03年8月、於上海学生ワークショップと04大会に関する協議。（所謂、新型肺炎で計画は立ち消え）
 - ⑦大会後援基金：小原前会長の提案により、全理事に一口～二口の協力寄付金を依頼した。これを基に、

国際委員会は、業界、団体からの寄付を募り、大会準備活動と予算獲得活動を展開。

- ⑧事務局は民間専門業者に委託、大会運営も依頼する。（IPEC21はDELUPHI）

（2）高橋鷹志新会長就任の挨拶（資料配布）

□2. 総会後の記念講演会（「住宅生産行政の課題と展望」

国土交通省住宅局住宅生産課長 寺前 實氏）

・講演内容の概要（目次）

はじめに、

I 建設投資

1. 建設投資
2. 住宅投資

II 住宅産業

1. 住宅市場
 - （1）新築住宅市場
 - （2）既存ストック市場
2. 住宅産業の現状と課題
3. 住宅産業政策

・図版（統計図表）にそって、主に1950年代後半から今日までのわが国、住宅生産行政についてデータを分析・考察しながら話は進められた。今後は、住宅の安全と健康：シックハウス対策（15・7・1基準法の一部改正）。住宅の長寿命化のための技術開発（SI住宅の技術開発・普及促進など）、住宅の情報化の推進、住宅の防犯対策の検討（検挙率20%以下といわれる所謂ピッキング対策など）。06年以降の人口減少と住宅ストックの余剰対策、リホネット・既存住宅流通の促進。自然保護、環境共生との関連で、森林ストックの効率的利用・育林活用の循環システムをどのように確立するかなど興味深く、示唆に富んだ内容の講演であった。

□3. 会員懇親会

若井正一理事の司会で総会会場1F.千葉工大喫茶室を借りて、高橋新会長をはじめ、記念講演をお願いした国土交通省、寺前実課長を囲んで2時間ほどの情報交換・親睦を深めるひと時を持って散会した。参加者42名。

※本号末尾に関連記事（編集委員会記）

■理事・評議員会・会長補佐会議議事録

□1. 平成15年度第1回理事・評議会議事録

日 時：平成15年5月31日（土）12:00～14:00

会 場：千葉工業大学津田沼校舎431号講義室

出席者：井村、上野、岡島、小原（誠）、加藤、河田、北浦、木村、栗山、小原（二）、小林、渋谷、島崎、高田、高橋、内藤、中村、灰山、日原、藤田、棒田、松本、森保、湯本、若井、藤城

進行役：湯本

記 録：上野

総会に先立ち、理事会・評議会の合同会議が開催された

1. 前回議事録の確認（上野）

1月24日開催の平成14年度第4回理事会議事録を承認。
＜報告・審議事項＞

2. 理事会・評議会成立数の確認（上野）
3. 学会長改選の件（井村選挙委員会委員長）

小原学会長から辞任の申し出であり。理事による会長選挙を実施した結果、高橋鷹志氏が当選。任期は平成

15・16年度となる。理事会にて承認・任命。

4. 小原会長挨拶（小原二郎）

5. 平成14年度事業報告並びに収支決算の件（上野）

総会資料に基づき説明、監査報告（中村）、承認。

6. 平成15年度事業計画並びに予算計画（上野）

7. その他

①2004年AIDIA日本大会の件（加藤）

論文集・作品集の用意。論文募集はH16年2月。事務局の設置。ゲストスピーカー。インテリア学会大会と同時開催。2日間を予定。

②会長補佐会議の報告（加藤）

H15年3月12日開催。AIDIA講演基金の開設。

③名誉会員の件（上野）

平成14年10月14日の理事会にて名誉会長の設置提案。名誉会長：小原（二）、名誉会員：渡辺、田辺、白石、車、川島（5名）を推挙。承認。

④入・退会の承認（上野）

入会：正会員5名、準会員8名。退会：正会員4名。会員数：正会員568名、準会員36名、賛助会員25社。承認。

⑤部会報告

歴史部会：学会大会に山形近郊の近代建築の見学会を計画。

⑥支部報告

⑦委員会報告：論文報告集は6月10日発行予定。

⑧平成15年度学会大会の件（日原）

発表原稿の締切日は9月10日。

引き続き、総会、記念講演「住宅生産行政の課題展望」、懇親会が開催された。

□2. 平成15年度第1回会長補佐会議議事録

日 時：平成15年8月29日（金）18:00～20:00

会 場：東京都厚生事業団神楽坂エミール

出席者：高橋、小原（二）、島崎、加藤、直井、湯本、栗山、木村、渡辺（秀）、藤城、上野

進行役：上野

記 録：上野

高橋会長の挨拶の後、補佐会議が開催された。

1. H15年度総会の報告（上野）

5月31日に開催の総会資料を基に、H14年度活動報告、決算報告、H15年度活動計画、予算計画、名誉会員の推挙の承認について報告された。

2. 学会の運営について（高橋）

- ・会長提出の資料を基に、7月10日開催の会長引き継ぎの会（小原、高橋、藤城、上野）において、会長任期が2年、前会長の路線で運営することが確認された。また、7月22日に会長補佐会議の打ち合わせ会合を高橋、湯本、藤城、上野により行った旨、報告があった。
- ・今年度で学会設立15周年になる。
- ・学会本部を千葉工大、分室を藤城事務局長宅におく。
- ・事務局への連絡を円滑に行うため、留守番サービス代行センターの利用が考えられる。
- ・社会的認知を高めるために、学会のNPO法人化、学

術会議への登録の可能性を検討する。

- ・緊迫した学会予算の実情を考慮して、適切な部会・支部の活動費の配分、年度活動計画書に基づく予算配分、決算報告書提出の義務化、重点配分、単年度予算の見直し等を検討する。
 - ・開かれた学会を目指し、社会的活動に対する理念の提示、他団体との横断的活動、公開セミナーの開催などの検討。
 - ・学会の社会的役割、長期的理念の表明
 - ・出版など社会的事業の展開：「インテリア標準仕様書」「インテリア学大系」「子供向け書籍」など。
 - ・15年間に及ぶ活動内容のまとめ
 - ・学会パンフレットの作成
3. 会員増強の件
- ・正会員数：540名、準会員：38名。15%は会費未納、実質400万円が活動予算。
 - ・インテリアプランナー、インテリアコーディネーターリフォームマネージャー、専門学校への呼びかけ。
 - ・大会開催までに賛助会員の入会候補リストを各理事にまとめてもらうよう、依頼する。
 - ・工業高校のインテリア科は、全国で43校、教員数は200名に及ぶ。
4. AIDIA（加藤）
- ・2004年10月20日前後に開催・16名の理事による活動費（845,000円）
 - ・大会委員長：高橋、実行委員長：加藤、事務局：藤城、財務：佐戸川、プログラム：直井、論文受付：渡辺、展示委員長：鈴木、須永、運営：デルファイ研究所
 - ・日本大会における名誉会長：小原（二）
 - ・参加費の検討
5. 会報29号の発行（渡辺）
- ・9月25日発行予定
6. WGの設置
- ・NPO法人化、学術会議登録の可能性検討：湯本
 - ・事務局の在り方と業務分担、電話の留守番サービス、活動費の配分、会員増強、ホームページの開設、出版計画、公開セミナー等：事務局でWGメンバーを提案し、検討をはかる。

■平成大会直前の楽屋裏

ー新企画のメリット、デメリットー

東北芸術工科大学 日原 もとこ

本学の夏休みは8月に入ってからなので、後期は9／26から始まる。それでも、8月の下旬までは、前期の課題提出や成績入力などで、結構忙しく夏休み気分にはおれず、9月に入ると早速学科会議や教授会などで、気持ちにプレッシャーが掛かってくる。また、本年は大会担当校になったお陰で、なおさらのことである。しかし、大会のマニュアルを後続の為にと入念に記録を残された、大阪市立大の北浦かほる氏の大会要領なるものが、大変役立っており、改めて感謝する次第である。とはいえ今回は、学会事務局の中でも、ものによって担当部署が異なるなどが以前とは少々複雑な状況で、分からないことがかなり出てきている。また、予算節約の意味もあって、全体理事会開催を大幅に減らしているので、会長補佐会議などの情報が遅れたり、担当校としては、対応がちぐはぐになるなど意思疎通を欠いているのも事実である。

今回は特に地方で開催する特色を出したくて、温泉国：山形を楽しんで頂こうと会員全員が、一つの温泉旅館に泊まって頂くという趣向を提案してみた。これは、私がかかなり若い頃、某学会で同じような温泉旅館に泊まり、呉越同舟の気分で参加者一同、大変充実した楽しい

気分を味わったことが記憶にあったからかもしれない。この提案は小原元会長も賛成して下さり、大いに期待していたことだったが、この読みは50%の確率だった。やはり、半分の方が3－4名同室という状況に抵抗感があるらしく、山形市内のホテルを希望されたのだ。これには驚いた。この企画のメリットは、懇親会と夕食を兼ねるので大幅なコストダウンを見込んで、宿泊場所も移動せずに済む上、温泉に入れて安心してお酒も飲める。翌日は、全員バスで会場まで送って差し上げる…（良いことづくめの筈だった）ところが、読みは浅かったと認めざるを得ない。時代は変わったのだ。私達の世代は、「旅は道連れ」などというほど、他人と隣り合わせで寝ることが、それほど気にならない世代なのかも知れない。そんな愚痴ともつかぬ台詞が口をついて出てしまった。すると、若い幹事から、「それだけじゃないですよ。発表を抱えている身になってみて下さいよ。ようやく寝付いた頃、酒臭いのが夜更けにどやどや、後から入ってくる図を想像してみたら？」というのだ。「そりゃあそうだ。」と思ってしまったが、ここはもう仕方がない。そのかわり、会員の皆様には、温泉を探るか？プライバシーを探るか？いくつかの選択肢を増やして御自分で対応して頂く結果になった。ここに、改めて半分の方には配慮が行き届かなかったことについて、お詫び申し上げます。

■運営委員会だより

□1. 総務委員会

委員長：上野 義雪（千葉工業大学）

平成15年度総会、平成15年度第1回理事・評議会は、5月31日（土）千葉工業大学において開催された。小原二郎会長から辞任の申し出があり、理事による選挙の結果、新会長に高橋鷹志氏が当選した。平成14年度活動報告・決算報告、平成15年度活動計画・予算計画は満場一致で承認された。名誉会長に小原二郎氏、名誉会員に川島平七郎、車正弘、白石勝彦、田辺麗子、渡辺優氏らが推挙され承認された。今年度は、AIDIA日本大会開催、会員の増強などが大きな課題となり、会員の協力を期待したい。

□2. 広報委員会

委員長：湯本 長伯（九州芸術工科大学）

広報委員会は、学会の広報及び公聴機能を分掌しております。新年度に当たり、委員会全般についてご報告致します。

1）年報：白石年報編集委員長のご努力で、2003年春の総会に時期を合わせ、発行されました。今後は、年度末発行という時期と、その内容の調和をより一層図って行きたいと思います。年報内容のデザインにつき、

ご指摘があればご寄稿をお願い申し上げます。（宛先 yumoto@design.kyushu-u.ac.jp）

2）会報：総会後で大会前というタイミングで、会報29号（本号）を発行しました。今年度の総会は、学会設立以来の会長交代という大きな節目を迎え、その関連の記事を中心に、紙面を構成しました。ご意見を戴ける場合は、渡辺編集委員長までお願い致します。（宛先 hidet.watanabe@nifty.ne.jp）

3）ホームページ等：学会内での意見の相違もあり、ドメイン申請を取り消したり、迷走が続いていますが、連絡用のデータ等を収納した（仮）ホームページを開設して行きます。主に連絡のために、ご活用下さい。正式なHPの開設については、今のところ目処が立っておりません。出来るだけ急いで、調整を致します。

インテリア学会（仮）ホームページ

<http://www.kyushu-id.ac.jp/KID/DRC/InetPub/JASIS/>

4）その他：学会内の公聴を試みたところ、もっと情報をオープンにして欲しいというご意見が多いようです。そのための手段としては、やはりメールニュースが最も有効です。多くの学会では今、「受付窓口の集約代行化」と「メールニュース」開設が行われつつあります。「メールニュース」を受け取れない方のためには、FAXによる代替手段が取られており、ニュース発生から数日間での情報共有が可能となっています。そこで

来るべきニュース開設の準備のため、機会を見つけて事務局まで「メールアドレス、またはそれに代わるFAX番号」を、お知らせ下さい。宜しく願い申し上げます。

□3. 論文審査委員会

委員長：直井英雄（東京理科大学）

恒例のご案内ですが、本年も10月末日を期限として、論文・報告を募集しています。「募集規程」と「原稿執筆要領」が「論文報告集」に載っておりますので、それをご覧のうえ、ふるってご応募ください。

■支部だより

□1. 東北支部

支部長：日原 もとこ（東北芸術工科大学）

「東北の素材と私たち研究会」の第二信一追加分—15年度の東北支部総会は6月30日に東北芸術工科大学にて開催された。中心議題は、この秋に開かれる研究発表大会の担当校として、どのような方針で、又どのような特徴を出していくかについて原案を示し、会員に検討してもらった。東北といっても会員の所在地は各県にまたがり点在しているので、なかなか、気軽には集れない。したがって、大会幹事は実動委員として基本的に学内スタッフが対応することについて、了解を得た。

その後、鈴木敏彦支部事務局長より、標記研究会主査として、今後來年に向けての研究会運営と方針が述べられた。この研究会の目的は、東北に埋もれている或いはマンネリ化している、伝統技術や素材に着目して、新しいデザインコンセプトにより、イメージの再構築を図るという狙いから始められたものである。特に今回は提唱者である鈴木氏が積極的に取組んできたもので、初年度は予算の制約から学内で先行実施されたものである。この度の成果物は「まげわっぱ」から生まれた新生「MAGEWAPPA」と題された。

この作品はすでに、完成しており、去る5月17-20日に開かれたNYのコンテンポラリー・ファニチャー・フェア（ICFF2003）に出品し、高い注目を浴びた。また国内では様々な反響を呼んで、多くのメディアに取り上げられ、特にJRの東北キャンペーンポスターにも「MAGEWAPPA」のネーミングで紹介された。さらに、関東、関西圏のJR車内広告に掲出されることとなり、東北支部の研究会から、早速大きなヒット作品を生み出すこととなった。これによって、沈滞しつつある伝統産業に大きな刺激を与



▲小堀酒造店ラウンジにて（北陸支部）

□2. 北陸支部

北陸支部：棒田 邦夫（金沢学院大学）

4月19日（日）、自然環境と素材（木材）の効果的な対応で、グッドデザイン賞を受賞した小堀酒造店、河内村工場と鶴来町に建つ昆虫館の見学会を実施しました。当日はあいにくの雨でしたが11名の会員が参加しました。小堀酒造店では、社長直々のお話と工場の案内をいただきました。

また、6月7日（土）には支部総会を開催し、講演会と懇親会も併せて行いました。講演会は金沢学院大学美術文化学部の中口征三教授を講師に招いて「視覚伝達メディアとしてのステンドグラス」をテーマに、これまでに関わった金沢教会の施工例を題材に幅広いお話を聞かせていただきました。講演後は、改めてステンドグラスの奥深さを感じ、大変勉強になりました。

なお、9月には富山県高岡市内で見学会を予定しております。

□3. 関東支部

支部長：小原 誠（文化女子大学）

1. 平成14年度第二回見学会報告

平成15年3月20日（木）午後立教大学チャペルと自由学園明日館の見学会を開催しました。参加者25人。

立教大学チャペルは大正7年モルガン事務所の設計で完成した平屋建て煉瓦造の建物で、とくに免震構造により一昨年前に煉瓦造の耐震改修を実施したことに大きな意義が認められ、建築・設備維持保全推進協議会からベ



▲金沢教会ステンドグラスの説明をスクリーンにて（北陸支部）

ストリフォーム賞を受けたものです。免震構造によって上部構造の補強を最小にとどめ、意匠を損なわずに改修が実現されました。大学のご好意で、地下のダンパーやストッパーよりなる免震装置の見学の機会も得ることができました。

自由学園の明日館はF.L.ライト設計、遠藤新の設計監理により大正11年に完成した集会施設で、雨漏り等老朽化していたものを、多くのボランティアの協力を得て一昨年に修理が完了したものです。改修の経緯はこの修理に参加された井上祐一氏から説明を受けました。東京にはもう希有になったライトの残り香を、午後のお茶とともに味わうことができました。

2. 平成14年度活動報告

平成14年度の日本インテリア学会関東支部活動について下記の通りご報告致します。

1) 幹事会開催

第1回：平成14年5月25日、神楽坂エミール、新メンバー顔合わせ、新年度活動方針。関東支部は本部行事や研究部会行事とダブルので、独自性のある講演会か見学会を中心にする。

第2回：平成14年7月4日、文化女子大17階、白井温紀女史講演企画、見学企画案提案。

第3回：平成14年9月19日、文化女子大17階、14年度支部活動費配分 177,000円。白井温紀女史講演会収支報告。見学会候補審議（遠野リンデンバーム、ベルカ賞受賞建物）。

第4回：平成14年11月8日、文化女子大17階、教育部会「インテリア教育の高大連携」シンポの共催提案。11月末に山下池田山ハウジングの見学企画審議。新年度にベルカ賞受賞の立教大チャペルと自由学園明日館見学会の企画案審議。

2) 講演会

平成14年7月19日、白井温紀女史講演会「家庭の庭」18:00～20:00聴講者約50名、講演内容は27号会報参照。

3) 見学会

平成14年11月30日、山下池田山ハウジングの見学会、参加者約40名、行事報告は28号会報参照。平成15年3月20日、立教大チャペルと自由学園明日館見学会、参加者約50名、行事報告は29号会報に掲載予定。

□4. 東海支部

東海支部庶務幹事：高木 清江

本年度の総会と総会後開催された講演・見学会、懇親会の報告を致します。

1. 定例総会

平成15年6月7日（土）13時45分より名古屋市千種区の揚輝荘聴松閣地下インド様式の広間で総会を開催しました。前年度の事業報告、決算報告、本年度の事業計画、予算計画などの審議がなされ、議案どおり承認されました。閉会は14時15分、参加者は20名でした。

2. 講演・見学会

総会後、14時30分より名古屋工業大学教授・麓和善氏が揚輝荘の建物や変遷について講演を行いました。テー

マは「揚輝荘の建築と庭園」でした。講演後、揚輝荘内に現存する「聴松閣」「伴華楼」「白雲橋」「豊彦稲荷」および庭園を見学しました。

「揚輝荘」は大正7年に松坂屋創業者である第15代伊藤次郎左衛門祐民が千種区覚王山日泰寺東隣の森に開いた日本最大級の別荘建築です。当初は和風・洋風、中国やインド様式を取り入れた大小30棟余りが建造されました。現在は、焼失・撤去・改修などにより7棟を残すのみとなっていますが、当時のモダンな雰囲気を感じ取ることが出来ました。また、麓氏の講演を聞いた直後の為、有意義な見学会となりました。終了は17時、参加者はインテリア関係者、建築設計者など33名でした。

主催者として、参加していただいた皆様と総会、講演・見学会の場所を提供していただいた伊藤家の方々に御礼申し上げます。

3. 懇親会

講演・見学会後、近くの料理店で開催、終始和やかな雰囲気でした。参加者は21名でした。

□5. 関西支部

支部長：北浦かほる（大阪市立大学）

インテリアの実学入門シリーズ2回目については具体的な内容や場所を検討中です。副支部長2人と何度も話しあっていますが、実施条件がそろわないのでまだ、具体化していません。日頃から研究会のテーマに取りあげて欲しいと思っておられるアイデアや適切な施設がありましたら、是非ご一報下さい。

本年はまず、今関西で話題の「難波再開発」の見学会を行い、新しい商業施設のインテリア、エクステリアを見ていただく機会をつくりました。ふるってご参加下さい。学会員は無料。学会員以外は参加費¥1000です。

*難波再開発A1地区商業棟見学会

9月20日10時から2時間程度、大林組のプロジェクト責任者および南海電鉄の責任者から概要説明と現場説明があります。諸検査終了後で、内外装とも仕上がっており、オープン直前の見学ですのでご期待下さい。

□6. 中国・四国支部

支部長：灰山 彰好（広島女学院大学）

1. 支部活動の概要

本年度もまた、中国インテリアプランナー協会（CIPA）との緊密な協力関係（仕事のCIPA、勉強の学会、活動はすべて共催）のもとで、小規模ながら比較的熱心にと自負しつつ、支部活動を行っている。住宅リサイクル時代の到来を前にして、会員が所属するどの大学でもインテリア志望の学生が増えつつある。本年度から支部独自に学生会員制度を発足させ、講演会・見学会に低額の学生参加費を設定すると同時に、講師のご好意にすがりつつミニレクチャーと呼ぶローコスト講演会を始めた。

2. 平成15年度実施事業

1) 支部総会：5月17日、松山東雲短期大学

2) 第1回見学会：同日、渡辺家、豊島家、庚申庵。13

名参加。

- 3) 第1回ミニレクチャー：6月28日、株式会社フジヤ
広島支店長三原剛氏、64名参加。
- 4) 第2回見学会：9月14日、「島根を見る会」大森銀
山、ブラハウス、川島家。33名参加予定。

■研究部会だより

□1. デザイン部会

部会長：佐戸川清（㈱ゼロファーストデザイン）

本年度のデザイン部会の活動

- ・デザイン部会名簿の再修正
- ・デザイン部会員への情報提供の実施スタート
（展示会、イベント等の情報を適時発信）
- ・相互情報交換（部会員活動の相互情報）
- ・部会員メールアドレスの登録推進

8月6日井上昇氏の『椅子塾見学とセミナーへの参加』を行いました。見学会では、青山にある椅子塾で井上氏を囲み、開講の経緯、活動状況の他、新世代になう人たちへのメッセージなどに及ぶ有意義な話をする事が出来ました。

南青山会館で行われた、小原氏のセミナーでは、初期の研究段階での御苦労や日本人の座る椅子とは、と言ったことまで伺うことができ、矍鑠たる先生のお姿に身の引き締まる思いでした。

また、9月3日～7日飛騨、高山で行われた『暮らしと家具の祭典』を部会の皆様にご案内し、何人かの方々と会場でお会することができました。

このように、学会員によるセミナーや展示会情報を発

3. その他の活動予定

残る講演会とミニレクチャー。また、一昨年末で毎年「国際デザインシンポジウム」を開催しながらも諸般の事情で休会中の広島デザイン振興機構の活動再開を目指して、諸団体と話し合いをもっている。

信し、参加して頂くことで、各地で活動されているために、中々お会い出来ない会員の交流の機会としたいと考えていますので、今後もできるだけ多くの情報を会員にご案内できるよう努めていきたいと思っています。

そのために、現在、メールアドレスの登録をお願いしており、こちらが準備出来れば、企画に参加出来なかった方にもレポートなどをお送りできるとともに、会員の方々からの情報収集も手軽に出来ると思います。

□2. 教育部会活動状況

部会長：北浦 かほる（大阪市立大学）

教育部会の活動方針については、CAD教育について調査検討していく必要があるとのご意見が幹事会の中からでていましたが、CAD部会が設立されそこで同様の活動がなされていることから、教育部会本来の活動を目指す方向を確認しました。

インテリア教育に今、なにが求められているのか？日頃のご意見を是非お聞かせ下さい。部会活動に反映させていきたいと思っています。10月には東京で幹事会を開く予定です。インテリア教育を受けた卒業生達が社会の中でどのように活躍しているのかを、まず明らかにしていきたいと考えております。

■インテリア工事・仕様等基礎調査研究委員会報告

(2003. 9. 9)

計画・構法部会 小原 誠（文化女子大学）

1) 本仕様書の主旨

かねがねインテリア関係者にとって、インテリア業務の独自性を明確化することは大きな願望であった。そのためにも、設計受託や工事契約の業務が標準化される必要があり、これらの図書類の整備が期待されていた。とくにインテリア工事の内容を明確化することの一環として、インテリア工事の標準的な仕様書を制定することは、工事品質の向上を図るとともに、工事品質をめぐる紛争を回避し、インテリア業務に対する社会的信用を高めるためにも重要と考えられる。この仕様書作成の作業については、・インテリア産業協会から、「インテリア工事に関わる基礎調査及び仕様書、構成案の作成」として日本インテリア学会・計画・構法部会の「インテリア工事・仕様書等基礎調査研究委員会」が受託し、インテリア関係団体代表者による「インテリア工事標準仕様書検

討委員会」を立ち上げ、2000年秋より原案作成の作業に着手した。作成する仕様書は「インテリア工事標準仕様書」、略称はJISS（Japan Interior Standard Specification）とすることとなった。このほど素案がまとまりつつあるので、その概要を報告する。

2) 審議経過

「インテリア工事標準仕様書検討委員会」は平成15年度9月まで28回にわたり、基本事項、及び1～34章までの原案審議が行われた。平成15年を目標として、原案を取りまとめ、15年度末には「インテリア工事標準仕様書」試行版を出版する予定である。その後も引き続き、解説版および簡易なインテリア工事のための仕様書を作成する予定である。

3) 研究会の構成

「インテリア工事標準仕様書検討委員会」は、インテリアデザイン業務に関係する主要4団体として、日本インテリア学会、日本インテリアデザイナー協会、日本インテリアプランナー協会協議会、及び・インテリア産業協会の代表者の各数名によって構成され、平成12年8月

8日に発足した。日本インテリア学会・計画・構法部会の「インテリア工事・仕様書等基礎調査研究委員会」が、・インテリア産業協会より業務を受託し、インテリア工事標準仕様書素案の作成を行い、「インテリア工事標準仕様書検討委員会」の審議を経て原案の取りまとめを行う事としている。同委員会の審議メンバーは次の通りである（氏名（勤務先）：代表所属団体）。

- ・伊東 勉（三井デザインテック）：インテリア産業協会
- ・岩澤昭彦（日建スペースデザイン）：日本インテリアプランナー協会協議会
- ・小原 誠（文化女子大学造形学部）：日本インテリア学会、日本建築学会
- ・吉良ヒロノブ（吉良+D0デザイン研究室）：日本インテリアデザイナー協会
- ・栗山正也（栗山アトリエ）：日本インテリア学会
- ・阪井良種（有限会社デザインルーム阪井）：日本インテリアデザイナー協会
- ・湯本長伯（九州芸工大）：日本インテリア学会

4）インテリア工事標準仕様書の特徴

これまでの建築工事の仕様書と異なる場合の諸点を挙げれば、次のような事項である。

1. 改修に先立つ撤去工事を含む。
2. 撤去に伴う撤去品の再利用の記述を加える。
3. 撤去後の再仕上げについて、新設と異なる処理を要する場合の記述に留意する。
4. 躯体は原則として構造耐力上主要な部分を除外する。しかし躯体の部分的補修は含む。
5. 改修の場合、構造耐力上主要な部分以外の改修は包含するが増築は対象としない。
5. 建築工事仕様書では一括して内装工事などとして扱われてきた内容を、下地関係・床・壁・天井のように細分化する。
仕上げについては、古い仕上げ方法についても、tg浮いても件聴く
6. 内装材、設備端末、家具等取り付けの安全性、落下・転倒防止の記述を入れる。
7. 設備単独工事は含まず、本体工事の一部として扱われる範囲を含む。また住宅工事で扱われる程度の範囲、非住宅であれば室内端末側設備の工事の範囲とする。
8. アート工事・サイン工事のようなデザインを含み得る工事も、デザインのウェイトが軽微ならば、工事に包含できるようにする。
9. 家具等の注文製作、既存家具の修理・改造、及び新規購入・配置の場合も対象とする。
10. 外構・植栽工事は建物内部だけでなく、建築外部空間の外構・植栽を包含する。

5）インテリア工事標準仕様書の構成と記述の要点

以下とくにインテリア工事が単独に発注され得る事を前提として、とくに仕様構成上 留意すべき諸点を章立てにより列挙する。

1. 一般事項

- ・本仕様書の目的：インテリア工事における本仕様書の目的を記述する。
- ・記述の内容：設計図書の範囲、図面・仕様・標準図・現場説明要項等の記述の優先性、施工計画、協力業者、工事に含まれるデザイン図、施工図、検査、物品の搬・出入、完成検査、引き渡し、引き渡し時の提出物品など。
- ・用語の定義：すでにある用語は、なるべく法規、建築工事標準仕様書などに準拠する。その他、インテリア工事業界用語のあるものはそれにより、ないものは本仕様書で定義する。
- ・建築本体との関係：建築本体工事と並行する場合、建築本体工事と当該インテリア工事との関係、および既存建築物内の工事の場合の当該インテリア工事の範囲を記述する。細部については設計図書で特記する。
- ・不確定要素の規定：デザイン上不確定なものの扱い方を明示する。
- ・仕様の指定の仕方：仕様の決め方について定義をしておく必要がある。

工法指定—材料や作り方を定める従来の記述方法。

性能指定—寸法や最小限の規定により、他は性能値を示し、公的に、あるいは信頼できる機関の測定した性能値に従って使用すべき材料や部品を選択する。主としてすでに製品化されている部品・材料に適用する。例えば既成サッシなど。

製品指定—特定メーカー名や商品名を挙げて選ぶ。

類似品指定—具体的に特定の単品か複数のメーカー名・商品名を指定し、それに類似した物品を選ぶ。

意図指定—デザイン概念は決まっているが、詳細が確定していない場合。金額が決められないので、原則として概念を指定し、詳細決定後に追加契約をする。

- ・工事契約後の変更：工事契約後の変更・調整の手続きの明記。
- ・既製品の購入：既製品の購入・配置をインテリア工事に包含する場合の取り扱い、方法、現場での管理方法の明示。
- ・施工図・製作図作成：設計図書にもとずき工事契約の中で作成する図面の指示。とくにデザインを含む場合の明示。
- ・竣工図の作成：完成時に作成する総合図面の指示。
- ・工事時間帯指定：建物の使用条件からとくに指定された工事時間の制約条件。

2. 仮設工事

- ・仮囲い・養生：工事場所が無人か、居抜きか、使用中か、による仮囲い・養生の方法、危険防止措置、資材搬出入路のための仮設物の指示。
- ・使用継続中の工事：騒音・塵埃の発生の予防のための必要な措置。

3. 撤去工事

- ・既存部の撤去：撤去範囲の指示、撤去方法、分別方法、搬出方法。
- ・撤去材の利用：当該工事で撤去材を利用する場合の措置。
- ・有害物の撤去：アスベスト等の有害物の撤去の指示。

4. 鉄筋コンクリート工事

- ・工事の範囲：建物の主体構造にかかわる部分の変更・増改築は原則としてインテリア工事に含まないこととする。しかしインテリア単独の工事となる場合を想定し、最小限の躯体に関する工事、いわゆる二次構造部分、即ち非耐力壁、階段などの変更は取扱えるようにする。主体構造についても、仕上げ下地としての劣化部分の修理、主体構造に対して非構造部分を打ち継ぐ場合の打ち継ぎ方法、部分補強、亀裂補修などは記述する。

耐震補強はインテリアの領域を越えると考えられるので、建築工事によることとする。帳壁、パラペット、垂れ壁など非構造部の変更や新設は扱えるようにする。

5. 鉄骨構造

- ・工事の範囲：主体構造部と二次構造部分の区分が明確なので、主体構造部は錆止め、補修にとどめ、間柱、胴縁、垂木、床組みなどの二次構造部分については変更・新設も扱い得るようにする。

高力ボルトによる接合は建築工事に委ねるが、溶接と普通ボルトによる接合は記述する。

6. 木造工事

- ・工事の範囲：変更、部分取り替え、補強を中心に記述する。木造ではインテリア工事でも主体構造の一部は対象となり得るものとして記述する。主体構造に及ぶ場合は、特記によりその範囲を明示する。表装仕上げとなる部分は床・壁・天井などの項で扱う。

7. 石工事

- ・工事の範囲：内装の床と壁、制作ものにしばって記述する。建物構造としての石積みは扱わない。擬石、テラゾー、プレキャスト裏打ち石材についても述べる。
- ・構法の種類：湿式・乾式の各種構法について述べる。

8. レンガ・ブロック・ALC・プレキャストコンクリート工事

- ・レンガ：構造体としてのレンガ造は取り扱わない。帳壁や小壁として積む場合は、水平強度を担保できる厚さや補強法を記述する。
- ・ブロック：構造体としての補強コンクリートブロック造は取り扱わず、帳壁や小壁、間仕切などを対象とする。
- ・ALC：耐火構造としての間仕切り、二重床について適用する。
- ・押出成型セメント板：内外装、床に使用するものとして記述する。

9. 防水工事

- ・メンブレン防水：下階に対する室内の漏水防止のための工事として、本防水、簡易防水、シート防水、

塗布防水、FRP防水などを対象として記述する。屋根防水にも適用は可能である。

- ・目地防水：目地防水のための各種シーラントによるシーリングを記述。古いシーラントの除去と再度の施工にも触れている。

10. 左官工事

- ・左官種別：モルタル、プラスターだけでなく、漆喰、ドロマイトプラスター、土壁、砂壁、洗い出しなどの骨材表し仕上げ、けいそう土塗りを扱っている。
- ・既存部への工事：既存部左官仕上げる撤去方法、既存下地に対する仕上げる接着の保証、下地によるムーブメント対策など。
- ・塗り仕上材：建築用仕上塗材の中で、厚塗り材は左官工事で記述する。

11. 建具・ガラス工事

- ・工事の内容：内部建具・外部建具、金属建具・金属・プラスチック一体建具、木製建具、内付けサッシ、シャッター類、ガラス工事、建具金物、自動ドア等について記述。
- ・防火区画用建具：防火区画用建具として、シャッター、防火扉、垂れ壁等を含む。これらの動作のためのセンサー工事も含む。
- ・建具の指定方法：性能指定・製品指定・例示規定のいずれかにより指定。
- ・既存建具の撤去：ハツリ出ししか引き抜きかの指定。
- ・被せ構法：被せ構法とする場合の既存枠部分の処理方法。
- ・ガラスの取換え：既存建具の高性能ガラスへの取換え方法。

12. タイル張り工事

- ・タイルの接着方法：モルタルと樹脂系接着剤の使い分け、タイルの張り替え、コンクリートやモルタルの下地以外への施工などを記述。とくに既存部分の張り替えは剥がれやすいので、接着を確実にするための下地処理など記述。乾式タイル張構法、ハンギング構法による乾式タイル施工も記述する。

13. 塗装工事

- ・塗装種別：錆止塗料、各種下地の場合の油性系合成樹脂塗料及びエマルジョン系合成樹脂塗料、建築用仕上塗材の中で、薄塗り材を塗装工事として扱う。
- ・既存塗装部の塗替え：既存塗装部の塗替えについては一般的な注意事項を述べる。
- ・特殊塗装：オイルフィニッシュ、漆塗りについても記述する。

14. あと施工アンカー工事

- ・工事の内容：金属系及び接着系のあと施工アンカー、発射打込み鉋、ホールインプラグ類について記述する。保持強度とくに強度を必要とするあと施工アンカーの管理方法について述べている。

15. 軽量鋼製下地工事

- ・工事の内容：内壁、天井の軽量鋼製下地及びシステム天井の下地について記述する。
- ・天井取付物の場合：天井に取付物のある場合の留意点について述べている。

16. 金属工事
 - ・工事の内容：建築金物類（建具金物を除く）、非鉄金属、ステンレス鋼、鋳鉄などの素材による仕上げ、制作ものについて、下地との関係、加工処理、表面処理などについて記述している。
17. プラスチック工事
 - ・工事の内容：プラスチックによる仕上げ、制作ものについて下地との関係、加工処理・表面処理などについて記述。エンジニアプラスチックもこの項に含む。
18. 遮断材工事
 - ・工事の内容：断熱材、遮音材、気密材、透湿防止層、電磁シールドなどの取付けについて記述している。
 - ・壁体内結露防止：壁体内結露防止のための断熱材と透湿防止層の関係について留意点を述べている。
19. 床仕上げ工事
 - ・工事の内容：各種床仕上げ材による下地と仕上げについて記述している。
 - ・揚げ床工事：下地組みによる揚げ床、住宅用置き床ユニット、OAフロア、フリーアクセスフロアなどについて記述している。
 - ・置き敷き仕上げ：置き敷きとなる場合の敷物類の記述している。
20. 壁仕上工事
 - ・工事の内容：下地あるいは仕上となるボード張りについて材種と下地の関係、壁と天井との関係、各種下地への壁紙、織物、突き板などの壁装材張りについて、下地処理、接着方法について記述している。
21. 天井仕上工事
 - ・工事の内容：下地あるいは仕上となるボード張りについて材種と下地の関係、壁と天井との関係、各種下地への吸音材の取付け方法について記述している。
22. 置き床ユニット工事
 - ・工事の内容：事務空間のためのフリーアクセスフロア、簡易なOAフロア、コンクリート住宅用の置き床ユニットについて記述している。
 - ・床衝撃音対策：集合住宅のうき浮き床の衝撃音対策についても触れている。
23. 可動間仕切・移動間仕切工事
 - ・工事の内容：スタッド方式及びパネル方式の可動間仕切工事、及び天井レールに沿って横移動する移動間仕切工事について記述している。
24. キッチン・洗面台工事
 - ・キッチン：システムキッチン、壁付ユニットキッチン、単品のキッチンユニット、オーダーメイドのキッチンについて記述している。
 - ・洗面化粧台：単品の洗面台、化粧品棚・鏡と組み合わされた洗面化粧台、システムで組立てる洗面化粧台、オーダーメイド洗面化粧台について記述している。
 - ・設備工事との関係：設備工事契約部分とインテリア工事部分との区分を示す。
25. サニタリーユニット類工事
 - ・工事の内容：バスユニット、トイレユニット、洗面化粧ユニット等のルームサイズユニットの発注・取付け工事について記述している。
 - ・ユニットの変更：製品指定などで発注し、変更箇所を示して変更する。
 - ・設備工事との関係：設備工事契約部分とインテリア工事部分との区分を示す。
26. カーテン・日除け・スクリーン工事
 - ・工事の内容：ブラインド・カーテン・布日除け類、アコーディオンカーテンについて記述している。とくにカーテンは古典的な吊り方についても触れている。また窓外部に取り付ける日除け類もこの章で扱う。
27. 家具工事
 - ・工事の範囲：建築に取付く場合と、とくにデザインする制作物について規定。建築に取り付ける場合は取付け手順を明記。
 - ・指定方法：製品指定と例示規定はメーカー・型番・色彩などを明記。工法指定の場合は家具自体の仕様が必要。原寸作成責任、材料、加工、組み立て、塗装、取付け手順など明記。
 - ・工事の種類：木製家具、金属製家具、家具の表面加工、塗装、布張り、金物類の選択または製作
 - ・製作図の作成責任：製作図の作成が設計者か施工者かの責任の明示。
 - ・家具の修理：古い家具の修理についても触れている。
28. アート・サイン工事
 - ・アート物品工事：アート物品類は、既成品か、特注デザイン品かが明確であること。特注であれば、コストが算出し易いような制作方法の記述が必要である。しかし特注品でも制作者のデザイン料が工事費に包含されるような場合は、デザイン料が客観化できることが条件となる。それが不可能ならその部分を工事費から外すか、デザイン料を別途支出するなどの配慮が必要である。著作権についても明確化の必要がある。
 - ・サイン類工事：サイン類については、設計図書でデザインが決定されていることを原則とするが、デザインが工事包含の場合は上記アート物品工事にならう。
29. 特殊照明工事
 - ・工事の範囲：電気設備の一部としてとくにデザイン的に制作される器具及び周辺部及びサイン関係について記述している。
 - ・電気設備との関係：器具までの配線は電気設備、ネオンサインはこの章とする。
30. 外構・緑化工事
 - ・工事の範囲：室内外の緑化、整地、擁壁、舗床、囲障、排水、あずまや等の外構工事を扱う。
 - ・移動できる植栽：移動できる鉢植え、ドライフラワーや造花などの装飾を含む。
 - ・固定的な植栽：室内あるいはバルコニ、中庭、建物回りの、建物や土地に固定される植栽などについて記述する。植栽については、一定期間経過後の保証の有無を明記する。

31. 電気設備工事

- ・工事の範囲：戸建て住宅の電気設備全体、集合住宅では各戸メーターより端末側、ビルでは各階分電盤・端子盤より端末側の強電・弱電装置、接地工事を扱う。
- ・強電設備：300V未満（100V、200V）の回路・端末を扱う
- ・弱電設備：室内の通信・情報回線、制御盤を対象とする。

32. 衛生設備工事

- ・工事の範囲：戸建て住宅の設備、集合住宅ではメーターより住戸側、ビルでは幹線より端末側を対象とする。
- ・工事の種別：衛生器具、配管、給水、給湯、排水、瓦斯、消火設備について上記の範囲で記述する。

33. 空調暖房設備工事

- ・工事の範囲：戸建て住宅、集合住宅の住戸内、及びビル室内の換気設備、暖房設備、空調装置を対象とする。したがって熱源装置を内蔵する機器は対象となるが、建物全体のための熱源供給装置や幹線路は対象外とする。

34. 搬送機械設備工事

- ・工事の範囲：段差解消機、階段昇降機、身体不自由者用リフト、簡易形エレベータ、住宅用エレベータ、ダムウェーターを対象とする。簡易形エレベータについては、積載荷重1000kg以下、速度は毎分60m以下を対象とする。

付章、特記事項

- ・記述内容：工事対象となる部分で、詳細を仕様上規定すべき事項を列記する。

■平成15年度／日本インテリア学会／総会資料

■議 題

第1号議案

平成14年度事業報告および収支決算報告の件

第2号議案

平成15年度事業計画および収支予算の件

第3号議案

平成15年度役員および組織の件

■平成14年度事業報告

東京において開催された学会大会のほか、例年に準じた活動が行われた。

AIDIA中国大会（10月25日～28日、西安）には、2004年日本大会に向けて日本から約25名が参加した。次回の日本大会開催にあたり、AIDIA日本大会準備会発足後援会（委員長：加藤力）を設置し、他団体の協力のもとに準備を開始することになった。

学会運営の省力化をはかるために、会長補佐会議が2回開催された。

財政状況は、会員の会費未納が運営を圧迫することになり、事務局として会費督促等の処理を行ってきたが、会費未納者や会員増強が次年度の課題となる。

■平成14年度における主な会議・イベント

・大会

第14回大会（武蔵野美術大学）

02. 10. 13 見学会

02. 10. 13 懇親会

02. 10. 14 講演会

02. 10. 14 研究発表会

02. 10. 14 学生卒業作品展

・総会

平成14年度総会

（東京都厚生事業団・神楽坂エミール）

02. 15. 25 ワークショップ・懇親会

・理事会

第1回 02. 14. 15 （東京）

第2回 02. 15. 25 （東京）

第3回 02. 10. 14 （東京）

第4回 03. 11. 24 （東京）

・会長補佐会議

第1回 03. 12. 2 （東京）

第2回 03. 13. 12 （東京）

・韓国室内デザイン学会創立10周年記念行事

02. 15. 10 （漢陽大学校）

・AIDIA中国大会

（西安市国際会議場）

02. 10. 25～28

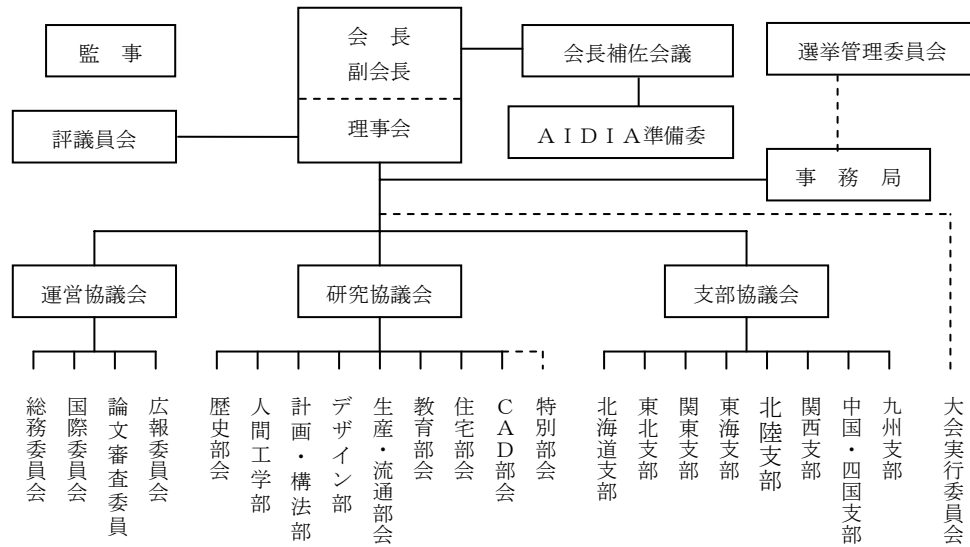
■平成15年度 事業計画

学会大会や経常的な事業活動のほか、AIDIAに向けてその準備に学会が総力をあげて進めることになる。

学会活動の正常化をはかるために、会員の増強や学会活動における中心的な人材の確保、更に、学会収入の増収を期待できない状況の中で、支出を抑えた予算計画と会員に対するサービスの向上に努める年度と考えたい。

また、学会事務局のあり方についても会員の協力の下に検討を要する。

■平成15年度 組織



■平成15年度 役員

会 長	高橋 鷹志	理 事	北浦かほる 木村戦太郎	理 事	西出 和彦 灰山 彰好	支部長	小原 誠 (関東)
副会長	岡島 達雄 加藤 力 島崎 信 高橋 鷹志		栗山 正也 小西龍三郎 小原 二郎 小松 唖一 佐戸川 清		日原もとこ 松本 直司 森保 洋之 湯本 長伯 若井 正一 渡辺 秀俊		小松 唖一 (北陸) 松本 直司 (東海) 北浦かほる (関西)
監 事	大谷 文行 中村 圭介		沢田 知子 渋谷 邦男 清水 忠男 島崎 信 高橋 鷹志 内藤 昌 直井 英雄	支部長	渋谷 邦男 (北海道) 日原もとこ (東北)		灰山 彰好 (中国・四国) 小西龍三郎 (九州)
理 事	上野 義雪 岡島 達雄 小原 誠 加藤 力						以上33名

平成14年度（平成14年4月1日～平成15年3月31日）決算報告（案）

■収入の部

項 目	予算額	決算額	差 額	備 考
1 繰越金	1,377,595	1,377,595	0	
2 会費収入	7,140,000	6,626,000	514,000	
正会員入会金	100,000	45,000	55,000	入金9名
正会員会費	6,200,000	5,789,000	411,000	
準会員会費	240,000	192,000	48,000	
賛助会員会費	600,000	600,000	0	
3 事業収入	500,000	309,100	190,900	大会参加費、論文集、梗概集等
4 雑収入	100,000	320,221	△220,221	部会残金等
計	9,117,595	8,632,916	484,679	

■支出の部

項 目	予算額	決算額	差 額	備 考
1 事務局経費	1,700,000	1,607,886	92,114	人件費、消耗品費、事務機器管理費等
2 旅費・交通費	700,000	709,880	△9,880	理事会出席実費、国際委員会交通費補助他
3 印刷費	1,400,000	1,352,625	47,375	会報、論文報告集、梗概集、封筒他
4 通信費	800,000	676,721	123,279	印刷物発送、事務連絡費他
5 会議費	300,000	338,357	△38,357	総会会場費、理事会・補佐会議諸経費等
6 委員会活動費	900,000	1,112,349	△212,349	
7 支部活動経費	800,000	803,360	△3,360	8支部へ配分
8 調査研究費	600,000	744,240	△144,240	8部会配分
9 大会準備費	450,000	450,315	△315	第14回大会分（作品展経費含む）
10 予備費	300,000	—		
次年度繰越金	1,167,595	837,183	630,412	
計	9,117,595	8,632,916	484,679	

平成15年度（平成15年4月1日～平成16年3月31日）予算（案）

■収入の部

項 目	予算額	備 考
1 繰越金	837,183	
2 会費収入	6,835,000	
正会員入会金	75,000	5,000×15名
正会員会費	6,000,000	10,000×600名
準会員会費	160,000	8,000×20名
賛助会員会費	600,000	30,000×20口
3 事業収入	400,000	大会参加費他
4 雑収入	200,000	広告料他
計	8,272,183	

■支出の部

項 目	予算額	備 考
1 事務局経費	1,600,000	人件費130万、消耗品費等30万
2 旅費・交通費	700,000	理事会出席実費他
3 印刷費	1,400,000	梗概集、論文報告集、封筒他
4 通信費	800,000	印刷物発送、事務連絡費等
5 会議費	300,000	総会、理事会、補佐会議他
6 委員会活動費	900,000	広報80万、国際10万
7 支部活動経費	800,000	8支部へ配分
8 調査研究費	600,000	8部会へ配分
9 大会準備費	450,000	第15回大会分（作品展経費含む）
10 予備費	300,000	
11 次年度繰越金	422,183	
計	8,272,183	

■平成15年度会員の異動

(H15. 4. 1～8. 25)

1) 退会

石橋 英昭	(株)ダイエンス
江藤 直幸	ミサワ東海
山田 雅美	愛知産業大
富永 禎秀	新潟工科大
北村新比古	(株)アルファ
林 悦子	(株)イー・デザインオフィス
福田 薫子	
榎田 均	
荒木 二郎	ミサワホーム(株)
石田 平二	(有)エスシープロジェクト
内井 乃生	文化女子大
梅津 二郎	職能大
金子 誠之助	金子インテリア
菅野 有香	
草苺 みの里	草苺設計室
小林 宏美	
鈴木 礼子	奈良女子大
中村 正実	(株)双葉商会
畑 由紀子	大和ハウス工業(株)
服部 剛典	名工大
服部 みゆき	国際デザインカレッジ
馬場 昌子	関西大
林 隆夫	
松井 英明	財 日本色研
望月 積	東京芸大
吉沢 直紀	(株)ミサワ茨城
渡辺 久仁子	東京理科大
吉田 佳世	フリーランサー
山下 誠	東京ミサワ(株)
須長壮太郎	須長事務所
野崎 弘之	不明者

2) 入会

戸倉 容子	(株)ドムスデザイン
長尾 由美子	東京理科大 (直井研)
水澤 秀輔	同上
服部 達哉	同上
加藤 正男	同上 (正会員)
辻川 ひとみ	追手前女子短大
今田 晃一	文京大
永井 和子	松山東雲短大
東 優	松山東雲短大
渥美 浩章	東北芸工大
渡辺 雅志	東北芸工大
小野 里奈	東北芸工大

酒井 聡	東北芸工大 (院)
尾形 直紀	東北芸工大 (院)
武田 隆史	東北芸工大 (院)
伊藤 伸	東北芸工大 (院)
大道寺怜奈	専門学校 仙台カレッジオブデザイン
山越 衛	金沢科学技術専門学校
浦 愉加	浦建築研究所々長
大岡千恵美	千葉工業大学 (院)
赤塚 史章	千葉工業大学 (院)
中山 良子	東北芸工大 (7・9受理)
廣瀬 直樹	(有)アイ・シー・ジー所長
加藤 一枝	一級建築士事務所々長
秋吉 崇博	日本大学 (院)
清 利幸	日本大学 (院)
武田 康	日本大学 (院)
伊藤 隆	日本大学 (院)
十文字 聡	日本大学 (院)
時崎 裕千	日本大学 (院)
浜田 育実	日本大学 (院)
西山 博之	日本大学 (院)
杉江 良寛	京都大学 (院)

■編集後記

本年度1回目の発行になる29号です。会長交代という大きな出来事があったにもかかわらず、発行が遅くなりましたことお詫び申し上げます。毎回のことですが、ご多忙中、短期間での執筆依頼にもかかわらず快くご寄稿いただいた皆様に紙面をお借りして御礼申し上げます。会報の編集内容についても新たな方向性を検討する必要がありますと感じております。会員の皆様からのご提案をお待ちしております。

(渡辺秀俊)

■事務局

日本インテリア学会事務局 (千葉分室)
 事務局長 藤城 幹夫
 〒262-0045 千葉市花見川区作新台2-23-11
 FAX : 043-286-7456

■日本インテリア学会会報第29号 (2003. 9. 25発行)

編集者 : 湯本長伯、渡辺秀俊
 発行者 : 高橋鷹志 (日本インテリア学会会長)
 広報委員会 : 湯本長伯、小林輝暹、藤城幹夫、白石光昭、渡辺秀俊